

グリーンと暮らせば

owner
gardener's
life

巡ってくる季節が待ち遠しい——。
そんな「身近な花と緑の世界」。
スウェーデンハウスオーナーでもある
プロガーデナーが、ご案内します。



壁にラベンダーの三日月を浮かべてみませんか？

甘く華やかな香りを漂わせて、風にそよぐラベンダーは、初夏を代表するハーブです。その香りには、リラクセスを促す効果があり、生花はもちろん乾燥させて楽しむこともできます。我が家のお気に入りには、「クレッセント（三日月形）」と呼ばれる、弓形のオーナメント。ラベンダーのやさしい雰囲気と、その存在感がインテリアのアクセントになります。香りに包まれながらのクレッセントづくりは、心安らぐひと時です。ご家族や気の合うお友だちと、そんな時間を分かち合うのもいいかもしれませんね。

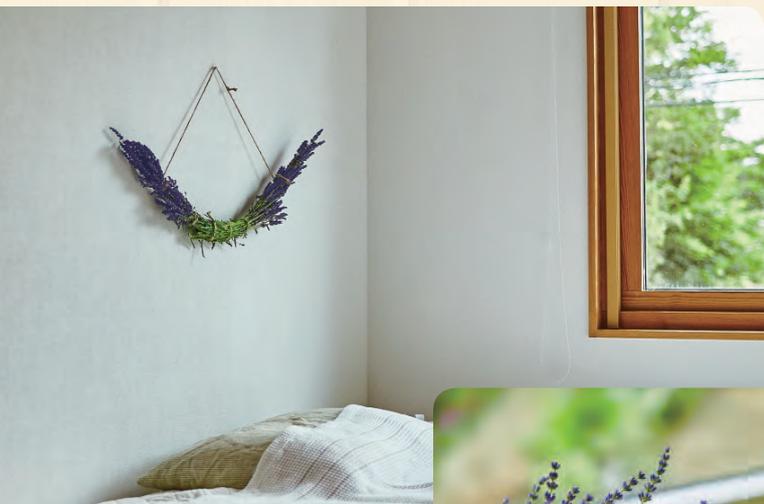
たくさん収穫できた時は、ドライハーブにして長期保存するのがオススメ。日光が当たると早く色が褪せてしまうので、日差しのない場所で、密閉できる容器に保存すると、色も香りも長持ちします。写真は、約20年前のイングリッシュラベンダー。



< ラベンダーの育て方のコツ >

- 陽当たりと風通しの良い場所に植える。（鉢などで育てる場合は、梅雨や長雨の時期、雨に当たらない場所に移動する。）
- 高温多湿に弱いので水やりは控えめにし、開花後には、花と伸びた茎を新芽の位置まで切り戻す。

※ラベンダーは100種類以上の品種があり、住んでいる地域によって、育てることのできる種類が違います。園芸店でお住まいの地域に向いている品種を確認してください。



写真のラベンダーの種類はラバンディン。

< 材料 >

- 蕾の状態のラベンダー
※蕾の状態で刈り取ると、株の負担も少なく、ドライにした時に香りと色が綺麗に残る。

●麻紐

< クレッセントの作り方 >

①2束に分けて（1束／軽く一握り程度）穂先が端（左右）になるようにし、茎の根元部分を全体の長さの1/3程度、重ねる。



②左右が対称になるようにバランスをとる。全体に蕾の紫色がよく見えるように向きをそろえる。真一文字より、ややV字になるように意識し、中心を麻紐で縛って固定する。



③中心から10～15センチ部分の、左右2ヶ所を麻紐で結ぶ。弧を描いた形状になるように、全体を馴染ませる。この時、力を入れ過ぎると、茎が折れてしまうので、力加減に注意する。



④穂先を麻紐で結び、この状態で直射日光の当たらない場所に吊るす。乾燥させながら、そのままインテリアとして楽しんで。



⑤乾燥が進むと茎が痩せ、麻紐が緩むので、必要に応じて、結び直す。